

Silver Project

2014年度産学連携



東京造形大学
Tokyo Zokei University

ACCESS: 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556
TEL:042-637-8111
URL:<http://www.zokei.ac.jp/>



Tokyo Zokei University



はじめに

1889年創業の歴史を持ち宮内庁御用達の銀器を扱う宮本商工は、確かな技術力に裏付けされた企業であります。そうした技術力を使いながら、若い人たちにも使いたくなるような製品の提案を、学生たちの若い感性による新たな提案が求められました。

銀と言う素材の製造方法や歴史に裏付けされた技法を学びながら、装飾品や食器、花器などの日常を彩る数点のアイテムを提案しました。最終的に2点に絞り込み実際に銀を使ったサンプルとして確認する事ができました。素材から製法を学び実際のモノとしてデザインを確認できた事は学生たちにも良い経験となりました。

東京造形大学教授 森田敏昭



銀を用いた道具の提案

銀は昔から様々な道具に使われてきた素材である。日本でも16世紀半ばに採掘量が急増するとともに普及し、貿易品としても重宝された。東京では銀座が取引の中心となり、多くの銀製品を取り扱う会社が存在した。宮本商工は創業135年を迎える宮内庁御用達の老舗銀製品メーカーで、宮家へ銀のカトラリーや手鏡などを収めていた実績を持つ。現在銀座一丁目にある販売店では銀製品が販売されているが、新規の顧客は少なく高齢化が進んでいるのが現状である。そこで本プロジェクトでは宮本商工の持つ歴史に裏付けされた技術で新たな価値を持った銀製品の提案を目的とした。



Project Member

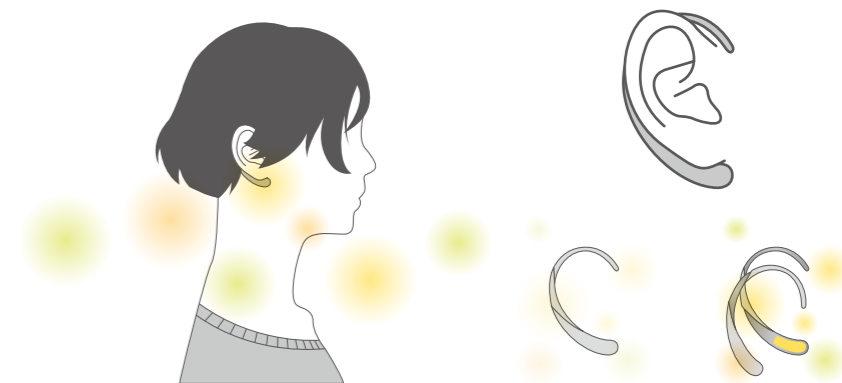
Prof: 森田敏昭
A: 下出翔太
M2: 粕谷 恭平
M1: 石原 優至, 永井 豪, 佐藤 文哉
UG3: 池田さやか, 木田紗綾, 片桐 悠太, 黒田 萌, 長堀 拓弥, 山口 佳子



香りの ON/OFF

所作から生まれる形

香りを身にまとう所作からデザインを展開し、香水をつける位置としてポピュラーな「耳の後ろ」に引っ掛けるアクセサリーを提案する。練り香水は製品の下部に入り、着用したときに耳の下に当たる。銀の熱伝導率を生かし、ゆっくりと中に入っている香水を揮発させる仕組みである。また、身体に直接つけていた香水をアクセサリー化することによって、食事のときや満員電車の中など、香りが要らない時に香りを外したり、抑えたりする、すなわち「OFF する」ことが出来るようになる。



磁石を入れることで、2つに分かれたイヤリングがしっかりと合わさり固定される。



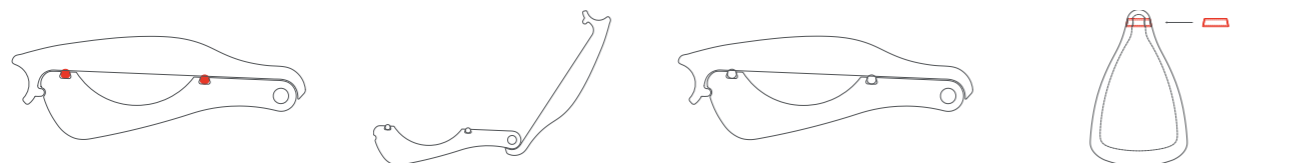
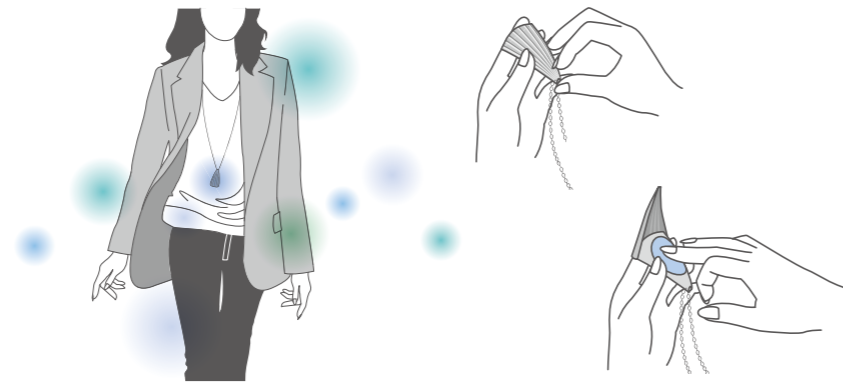
練り香水を入れるくぼみの淵に、凸と凹を付けることで、機密性を高め、液だれを防ぐ。

5, 最終プレゼンテーション



香りを持ち運ぶ

アクセサリとしての香水ケース
 シチュエーションを限定することなく香水を塗布することを目的とした、アクセサリとしての香水ケースを提案する。この形状は香水を指ですくう際にかかる力をもとに決定されていて、中の香水を包むようにして重なるシルバーの様子から真珠貝を連想し、表面には凹凸を施した。チェーンの長さは、香水を塗布するまでの一連の流れをスムーズに行えるよう、胸下を想定している。水容器としてだけではなく、銀の持つ装飾性を活かしアクセサリとすることで、携帯性が向上し、より手軽に香りを楽しむことができる。



リングを配置。密閉させることで、液だれを防ぐ。
 蓋が本体と接触しストッパーの役割をする。開きすぎを防ぐ。
 蓋に凸、本体に凹を作り、留め具とする。
 ヒンジにパイプを接合し、パイプの穴にストラップを通す。

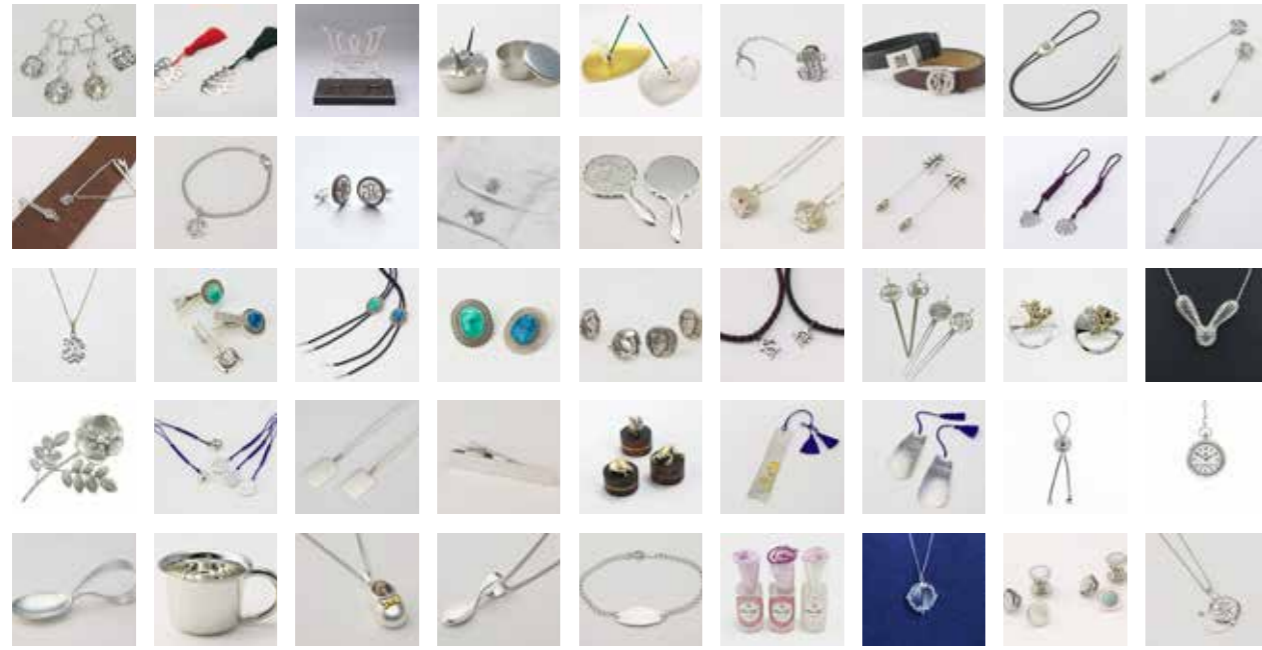
1, 宮本商行での銀製品の見学



2, 彫金人間国宝 - 桂盛仁氏の工房見学



3, 現在の商品分析と3つのコンセプト



Gift

Tool

Decoration



モノづくりから
コトづくりへ

特別な日に贈る
品の展開

若年層に向けた
装飾品の展開

4, 中間プレゼンテーション



銀の歯固め石

宮本商行とカスタマーの長期的な関係を築くギフト商品の提案。銀はベビースプーンの文化に見られるように魔除けや豊かさを象徴する素材とされ、子供の成長を願う贈り物として使用されている。この風習は西洋に由来するもので、日本文化のものではない。銀にすでに定着したイメージを損なわず、日本文化の中に組み込むことを目的とした。



銀のモビール

受け取ったときにギフトとして完結するものではなく、結婚や出産の際に贈られてきたモビールのオーナメントを受け取った人が自分自身で組み合わせ、イベントの記念に新しいオーナメントを飾り、その家族だけの思い出を投影していく。家族の歩みとともに成長し、形を変え、アルバムのように思い出を紡いでいくモビールを提案する。



花器

鏡面を中心とした仕上げの違いで展開する花器と時計を提案する。花器をダイニングテーブルに置く場合邪魔にならない小さなサイズが良く、遠くに置く場合は目に入るようにすらっとした佇まいで美しく見えるプロポーションが良いと考え、場に合わせるように二つの寸法を展開した。台座は鏡面と鏡面以外の合わせて4種類の印象の異なる仕上げである。



雪見酒の徳利

実需されるための銀製品には現代の生活に合った使い処や、視覚的な美しさだけでなく、使い手の記憶に残るような体験を与える必要がある。そこで日本の文化である雪見酒をテーマにアイデアを展開した。飲み物とお湯に浸かりながら揺らめく器を横目にリラックスをするという経験することに、新たな価値がある。

映り込みの花器

花器はその存在を主張し過ぎない事が重要である、そこで銀の高反射する特性に着目した。鏡面は空間に溶け込み、存在を見えづらくさせる効果があるが、その表面に面の変化を与えることで、花器の存在を感じやすくさせた。花器の存在を弱めながらも感じることが出来る花器を目的とした。

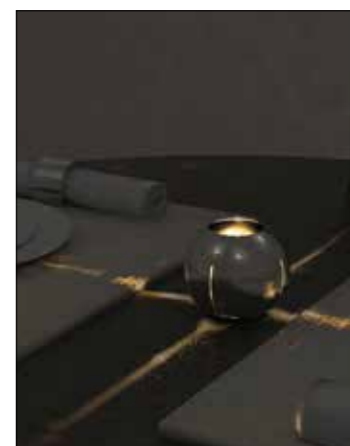


香りのアクセサリ

長くアクセサリーの素材として使用されてきた、銀の装飾品としての美しさは誰もが一度は感じたことあるだろう。銀を身にまとうシーンに対し、その空気感を含めた装飾のあり方を改めて考えた。そこでアクセサリーと同じように身にまとい、自分を表現する手段としての「香り」に着目し、アクセサリーと香りを同時に身にまとうことが出来ないと考えた。

時計

鏡面を中心とした仕上げの違いで展開する花器と時計を提案する。銀の壁掛け時計は、フレームや文字盤を特徴的な形にするのではなくオーソドックスな時計の形でありながら、回転体の形状の中で鏡面が美しく見えるようにフレームを設計した。あまりに大きく場所をとるものは贈りづらい為、通常よりも小さなサイズの壁掛け時計を設計した。



特別な日のための キャンドルホルダー

銀は装飾性が高いアイテムが多く、高価な素材である。そのため若年層が銀製品を使用する機会は少ない。そこで若年層に対して銀に触れる機会を作るにはどのようなアイテムが適切なのかを考え銀のキャンドルホルダーを提案する。